

亡き子のお金 退園者支援に



29歳で亡くなった後藤晃司さんの写真。女性自身は匿名を希望するが、息子の生きていた証しにと、写真を公開した

名古屋の女性 青葉学園に100万円

女性は、学園の寺井陽一副学
園長(六)と二年ほど前に知り
合った。近所に住み、身の上相

「息子が残したお金を子どもたちのために使ってほしい」と名古屋市内の女性(セ)が先月、愛知県日進市岩崎町の児童福祉施設「中日青葉学園」に二千万円を託した。寄贈したのは二十年前、二十九歳で亡くなった一人息子、後藤晃司さんの生命保険金。学園はこのお金を使い、学園を築立っていった若者のアフターケアのための自立支援基金を設立する。

(平木友見子)

談にも乗ってもらっていた。その中で、学園の退園者を思う寺井さんに共感するようになつた。

「その子を信じ、成長していく段階を応援し続ける姿勢が大事。親だったらそうするでしょう」。寺井さんの言葉に感銘を受け、女性は自らも時折、退園者の話を聞くようになった。

若者自立へ基金設立

同学園の妹尾浩和園長(六)によくと、施設で暮らす子どもは原則、高校卒業と同時に退所しなければならぬ。だが、親と死別したり、親から虐待を受けたりして頼る人のいない退園者たちが、生活していく上でのハードルは高い。

退所直後から数年間は、施設長が身元保証人や連帯保証人になる制度もあるが、その期間が過ぎると、退園者はたった一人で社会に出される。

寺井さんは二十五年前から退



寄付をした女性に感謝状を渡す寺井陽一さん(左)＝愛知県日進市の中日青葉学園で

園者を個人的に支援してきた。住む場所がなければ保証人になって知人のアパートに住ませ、仕事があれば就職先を紹介する。運転免許証の取得費を貸し、仕事後や休日を使って相談に乗る。これまで約三十人の自立を助け、現在も二十一〜四十一歳の十三人の支援を続けている。

女性は、悩み苦しむ子どもたちに、病気で急死した晃司さんの姿を重ねた。「息子にもっといろいろしてあげたかった」。後悔の念を若者支援へと変え、取っておいたお金を使ってほしいと寺井さんに申し出た。

女性は今月一日、学園を訪問、居室や体育館など施設内を見学した。元気に体操をする園生の姿に目を細め、「晃司の残した財産がみんなのためになるのがうれしい」と笑顔で話していた。